

心理学部

学校推薦型選抜(一般) 小論文

問題 以下の文章を読み、設問に答えなさい。

困ったとき、相談や情報収集をするため、誰かに援助を求める行為を援助要請行動という。一見、簡単そうに見えるが、いじめられた子や不登校の子どもが適切な援助要請行動を取っているかというところではなく、むしろ誰にも相談せずに1人で抱え込み、事態を悪化させている例が多い。カウンセラーや教師は生徒や保護者に気軽な相談を呼びかけているが、反応はいまいちである。例えば、文部科学省の全国調査によると、年間2万5千件を超えるいじめ事案のうち、被害者本人が申し出てくれる割合は17%程度しかない。また、自殺予防などのメンタルヘルス対策として、国や地方自治体は無料の電話相談センターなどを開設しているが、全国的に利用数は頭打ちである。

近年の教育心理学の研究によって、援助要請行動は、援助要請自立型、援助要請過剰型、援助要請回避型の3つのスタイルがあることがわかった。自立型に比べて、過剰型と回避型はトラブルやメンタルヘルス上の問題が懸念される。永井（2013）はそれぞれのタイプを次のように例示している。

援助要請自立型の例

- ・相談より先に自分で試行錯誤し、いきづまったら相談する。
- ・先に自分で、いろいろとやってみてから相談する。
- ・少しづらくても、自分で悩みに向き合い、それでも無理だったら相談する。
- ・悩みが自分一人の力ではどうしようもなかった時は、相談する。

援助要請過剰型の例

- ・よく考えてみればたいしたことないと思えるようなことでも、わりと相談する。
- ・悩みを抱えたら、それがあまり深刻なものでなくても、誰かに相談する。
- ・比較的ささいな悩みでも、相談する。
- ・困ったことがあったら、割とすぐに相談する。

援助要請回避型の例

- ・悩みが深刻で、一人で解決できなくても、相談はしない。
- ・悩みが自分では解決できないようなものでも、相談しない。
- ・悩みは最後まで、自分一人で抱える。
- ・悩みがどのようなものであっても、最後まで自分一人でがんばる。

問 子どもたちの援助要請行動を高め、いじめや不登校、または自殺の予防などに関する成果をあげるにはどうしたらよいと考えるか。あなた自身の見聞や自己省察も踏まえて、今後に向けた方策を提案してください。(800字以内)

出典 永井智 (2013). 援助要請スタイル尺度の作成—縦断調査による実際の援助要請行動との関連から—. 教育心理学研究, 61, 44–55.